

差出堰



【差出堰の取水口】



(右) 差出堰周辺のウォーキングマップ
(中) 万力林内の水路状況
(左) 時期になると虫が鑑賞可能

差出堰とは

差出堰は甲府盆地の東部、笛吹川の「差出の磯」の右岸より、農作物を育てるための水を供給する施設で、笛吹川から引き込んだ水は、取水口を通り「ちどり湖」を経由しています。

山梨市、笛吹市、甲府市を受益地とした施設であり、農業用水の確保だけでなく、受益地内の農村景観や生態系の保全やすらぎの空間の創出など、写真で示すような多面的な機能を有しています。

農林水産省では農家だけでなく、地域住民や都市の人々も加わった、疏水の保全に取り組むと、平成十七年三月に全国から選定した「疏水百選」を発表しました。その結果、差出堰は一般投票で上位六位に入賞しています。

差出堰の歴史

差出堰は「山梨県市郡村誌」によると、今から約四百年前の元禄年間に、多くの地元農家や下流の関係者の協力により造られました。

堰の水は笛吹川の水を現在とほぼ同じ場所から導き、水門の先から堰は二つに分かれ、一方は西の落合地区に、他方は東南に向かい、万力地区でさらに二つに分かれ、ともに正徳寺地区に向かって造られました。

現在も、人々の暮らしに水は欠かせないものですが、当時は農家のほとんどが水田を耕作していたので、水は今以上に貴重なものでした。

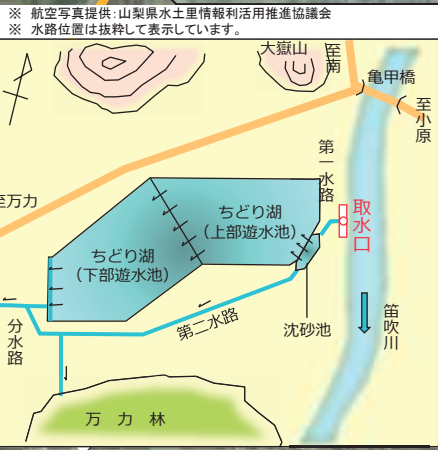
また、受益地内は水田から果樹へと変化していますが、果樹栽培においても、貴重な水源となっています。

果樹園内は昔ながらの石積み水路が多く、豪雨時に崩れるなどの被害が生じているため、部分的に県営土地改良事業等で改修しながら、土地改良区と地域住民が一体となって維持管理を行っています。

差出堰マップ



県営土地改良事業による水路改修工事



- 差出堰
- 河川
- 国道
- フルーツライン
- JR中央線
- 受益エリア

取水に位置するちどり湖

差出堰は水を笛吹川から直接引き込んでいますが、水田に用いるには、水が冷たいことが悩みでした。冷たい水を利用した水田では稲の穂枯れが起き、場所によっては青立ちという症状がでて、質の良い米を収穫することができませんでした。その対策として、「遊水地計画」と呼ばれる計画が持ち上がりました。

取水口のすぐ近くに、上部遊水地と下部遊水地という二つの池を築造し、太陽の光を利用して水温を上げようというものでした。

この池で「水温を上げてから堰に流す水稲栽培」という試みは当時としては画期的でした。そして、昭和三十二年から三十四年の三ヶ年計画で温水施設を設置、十八度前後の水温を二十四度に上げることに成功しました。

この結果、水稲の生産性が向上し、「当時としては最適な事例」として、県外からも多くの人が視察に来る毎日であった」と『山梨市誌』に記されています。それが「ちどり湖」です。

月見里(やまなし)農業紀行について

山が無い里は月がよく見えることから「月見里」と書いて「やまなし」と読み、山梨という地名の由来の一つとされています。

月見里農業紀行のページでは、山梨県内の様々な農業用施設(ため池、水路等)の様子を紹介しています。

疏水百選とは

疏水百選とは、農業用に作られ、地域で守られてきた水路を、未来へと継承するために農林水産省が選定を発表したものです。山梨県では本記事で紹介している差出堰の他に、村山六ヶ村堰(北杜市)が選ばれました。